

栗東市団体ヒアリングとりまとめ -事業所連絡協議会-

- 日 時：令和2年7月15日（水）10時～11時半
- 場 所：第二なかよし作業所
- 参加者：市内の障がい福祉サービス事業所の代表者等 13名

●内 容：

栗東市の課題について

<障がい者に対する理解・周知・啓発>

- ・障がいの有無に関わらず、共に暮らすことができる地域社会を実現するためには、どのような立場の人も平等に交流や関わり合いができる機会を設ける必要がある。
- ・事業所において、直接雇用している人については、特に問題はないが、請負の人については、障がいに対する理解をもっと深めるための研修機会を設けてもよいと思う。

<行政・団体・事業者・医療機関の連携>

- ・栗東市の職員は、当事者目線に対応してもらえるのでとても良い。
- ・法人単独で資金繰りをするのが大変なので、行政からの支援を手厚くしてほしい。
- ・作業所で行う仕事を探すのが、特に最近はコロナウイルスの影響で大変なので、行政から軽作業の依頼をするなど、何かしらの仕事探しへの支援が欲しい。
- ・相談支援からつないでもらう際に感じたこととして、行政が在宅（何らかの支援が必要と思われるが、実際には支援を受けていない人）の数を把握しているのか、把握しているなら、もっと事業所と密に情報共有をすることはできないのかと感じた。

<健康管理や医療>

- ・健康診断について、高齢者は加入している保険で受診できるが、40歳以下だと自分で費用を負担しなければいけない。何かしらの補助を市としてやってもらえると助かる。
⇒商工会の方に入ると、予防接種などの補助が出るので、そういったものを活用していくのも1つ。

<日常生活への支援（金銭的な支援を含む）>

- ・グループホームのような立ち立ちするために必要なサービスを充実していく必要がある。しかし、グループホームについては、運営が難しいことから、これ以上増やしていくのはなかなか現実的ではない。
⇒ショートステイの受け入れも難しくなっている。
- ・コロナウイルスの影響によっては通所できない人もでてきている。生活基盤を支えるための支援を講じていかなければならない。
- ・移動支援についても、コロナウイルスの影響でなかなか使いづらくなっている。
- ・通所手段の確保を図ると同時に、最近は通所での入浴介助のニーズが高くなっており、それに対応できる体制を作っていく必要がある。

<就労支援（福祉施設就労を含む）>

- ・今までは就職につなげることを重視した就労支援を行っていたが、これからは就職後の支援が大切になってきている。やはり就労してもすぐやめてしまうというケースがたくさんあり、それを解決

するためには就職した後にも適切なフォローをしていくことが望ましい。

- ・ハローワークに登録していても、なかなか一般就労してもらうのは難しい。一般就労までの間に、市役所で短時間の就労ができるような制度を作ることは難しいか。

<相談支援・情報提供>

- ・傍から見ても相談支援の事業者さんは、抱えている人数が多くてしんどそうだ。もっと行政から支援を入れてあげるべきなのではないか。
- ・在宅の人への情報提供が弱いと思う。相談支援からつないでもらった際に、「どこへ行けばいいのかわからなかった」とおっしゃっていた方もおられた。これは、困っている方を拾い切れていないということだと思う。情報提供については、もっと行政から積極的に発信してほしい。
⇒この辺りは隣の守山市が充実しているので、あれくらいしてほしいと思う。

<防災・防犯>

- ・非常食やAEDの整備のための資金的な援助はしてほしいと感じている。最近は災害も多くなっているのだから、“安全への投資”をしてほしい。
- ・避難所で生活することができるのかというのが当事者の方の大きな不安としてあると思う。その辺りについて、対策と周知を徹底してほしい。安心して避難所に来てもらうことができるかどうかは大事だと思う。
- ・地域の民生委員・児童委員さんとかは、高齢者の避難行動要支援者はきちんと把握されているが、障がいのある方については交流とかもなく、あまり把握されていないケースがあると聞いている。災害対策や備蓄も大切なのだが、普段から障がいのある方が地域に出られて交流を深めて、災害時にも助けてもらえるような地域づくりを進めることが一番大切なのではないか。

<その他>

- ・コロナ対策でマスクを配布してくれるのが県内で一番早かった。
 - ・現場の職員の負担感はどうしても増えている。特にグループホームのキーパーなど。臨時で頼れる人材センターのようなものを行政が整備してくれると、人手が足りないときに頼ることができてよいと思う。

栗東市の魅力について

- ・市の職員さんが優しく、当事者意識が高い。担い手側のことも考慮してくれて、同じ目線で協力してくれるところは助かる。
- ・コロナウイルスへの対策の速度が迅速だった。今後も引き続き支援していただくと非常に助かる。

栗東市団体ヒアリングとりまとめ -相談支援部会-

- 日 時：令和2年7月22日（水）10時～11時半
- 場 所：栗東市役所
- 参加者：市内及び湖南圏域の計画相談支援の事業者等 12名

●内 容：

栗東市の課題について

<障がい者に対する理解・周知・啓発>

- ・同和地区への理解・啓発がとても熱心な一方で、障がいのある方の人権に関しては、あまり目に見えない印象がある。もう少し、障がいのある方の人権擁護に関する研修や啓発の強化をしてもいいのではないか。
- ・市内に1人当事者として学校を回ったりする活動をされている方がおられる。しかし、高齢の方なので継続が難しくなっている。活動を継続させていくための支援や、あるいは後継者を育てるような支援など、そういったことを行政に入ってもらいたいと感じている。
- ・バリアフリー化や福祉車両への改修のための費用について、結構お金のかかる話で、今も多少の補助は出ているのだが、もう少し自由の利くような補助を出してもらうことはできないのだろうか。今だと一度福祉車両の補助を受けると数年は補助を受けられないということもある。現実としては、それでうまく回せるわけでもないのでもう少し自由の利く補助があれば助かるなど感じている。
- ・民生委員・児童委員の人が障がいのある人と関わる機会が少ないように感じる。地域の人知ってもらおうということも含めて、交流機会の創出をしてほしい。

<行政・団体・事業者・医療機関の連携>

- ・他の市と比べて職員さんが優しいと感じるが、それとあわせて職員さんしか見えてこないというか、保健師さんの顔が見えないとも感じる。市によっては、結構保健師さんとも話す機会が多いのだが、栗東は少ないように感じる。もう少し重層的に関わりを持ってほしい。
→それにあわせて、課の連携も弱いと感じるので、もっと横のつながりを深めてほしい。

<健康管理や医療>

- ・訪問看護が午後5時までと決まっておき、家族の負担になっている。もう少し長くできないものだろうか。病院から付き添いをしてほしいといわれても、難しいケースも多々ある。しかし、ヘルパーを頼むとお金も結構かかるので、負担が大きいと思う。
- ・難病の患者さんについては実態把握が進んでいないように感じる。特に通院で診てもらっているだけの人なんかの実態把握はできていないと思うので、その辺りも進めた方が良いのではないかと。

<日常生活への支援（金銭的な支援を含む）>

- ・ヘルパーの「生活」「身体」で報酬が異なると思うのだが、この基準が市によってバラバラのため、何らかの基準で近隣4市の報酬の基準を合わせてほしい。
- ・大津市内で、期限付きのグループホームがあると聞く。入れ替わり立ち替わりで訓練していくことができるので、非常に良い仕組みだなと思う。グループホームを新たに整備していくのは難しいと思うのだが、このようにやり方を工夫しながら、なんとか整備していくことはできないのだろうか。

⇒確かに独り立ちできるのに、居心地が良いのか居続ける人も結構おられるので、期限付きのグループホームという仕組みは良いかもしれない。

- ・成年後見制度の報酬も補助の対象が生活保護受給者だけとなっているので、対象を広げてほしい。

<就労支援（福祉施設就労を含む）>

- ・コロナウイルスの影響で送迎が難しく、働きたくても働けないという状況が出てきている。
- ・はじめに市の窓口で就労の相談されることもよくある。相談を受けた市の担当者から、「一般就労希望で来られた」と連絡があり、実際に本人に話を聞いてみると「作業所に行きたかった。」というケースが多くなっている。もう少し、市に相談が来た時にわかりやすい説明をしていただいで、スムーズにつながってもらえると助かる。

<障がい児支援（保育・療育・教育など）>

- ・一般の方々に奇声や多動に対する理解が広がってほしい。今は親御さんとかにしてみると病院にも行きづらいというか、周りの目を気にされて行くのをためらってしまうということも聞いている。ただ、病院は行かないと健康面でもよくないので、理解・啓発の取り組みを進めていく必要があると思う。
- ・よく、子どもを連れていくには、どこの病院に行くといいのかということも聞かれる。結局最終的には口コミになっているのだが、専門的な治療が受けられるとか、通いやすい病院をわかるようにしてもらえると助かるのではないと思う。
- ・育児支援については、まだまだ近隣市含めても整備できていない状況。今後は、育児支援についても、ニーズを踏まえながら整備してほしい。
- ・障がい児への支援は当然大切なのだが、最近は親御さんへの支援というか、実際当事者の方と親御さんの仲が悪くてとか、お互いに悪影響となっているケースも多くなっている。中には、到底養育できるような状態にない親御さんとかもおられたりするので、そういった方への支援というか、早期発見をして、早くから支援を当事者の方と親御さん両方にしてあげられるような体制づくりが必要だと思う。

<文化活動やスポーツへの参画>

- ・草津市では料理やスポーツなんかをできる教室があり、障がいのある方も参加できるようにされている。栗東市にもあるのかもしれないが、周知をしたり、大々的に取り組んでほしい。
- ・スポーツクラブやジムで運動することができれば、健康づくりという面でもいいので、そういう環境づくりにも取り組んでほしい。

<相談支援・情報提供>

- ・外国籍の人が親で日本語が通じないケースがある。通訳の人もいるのだが、予約制でなかなか取れないことも多いので、もう少し充実してほしい。
- ・相談事業所が増えており、どこを選べばいいのかというのが問題としてあると思う。サービス提供事業所の情報とかもすぐわかるようにして、当事者さんのニーズに応えられる体制づくりが必要だと思う。
- ・最近は恋愛・結婚に関する相談も増えており、対応に悩んでいる。そういうことを専門的にできるようになればいいかもしれない。

<防災・防犯>

- ・防災には訓練などもして取り組んでいるが、いざ実際災害が起こった時に、実行できるのかが不安

である。

<その他>

- ・ 駐車場がなく、車を停めているとクレームになり、駐禁を取られるケースが増えている。都市部では、日中車がない家の駐車場を貸してもらえるサービスがあったりすると聞くので、協力してもらえる家を探したりなど、何かしらの解決方法を行政と一緒に取り組んでいくことはできないだろうか。
- ・ 生活保護世帯などの低所得世帯が住むことができる賃貸が栗東市は少ない。障がい分野だけの問題ではないのだが、不動産会社と連携するなどして、安く住めるところを作っていくことは難しいか。
- ・ 通所事業所について、送迎時に国道をまたぐと、渋滞に巻き込まれるという理由で、利用が難しくなることが多い。難しいと思うが解決できるような方法を模索していけたらなと感じている。

栗東市の魅力について

- ・ 栗東市重度障がい児(者)訪問看護利用助成制度というのが他市では廃止されているのだが、栗東市では継続してやっている。実際の利用者がどれだけいるのかはわからないが、利用される方からは非常に助かる制度なのではないかと思う。
- ・ 満遍なくサービスや普段の生活に必要な施設がそろっている。住んでいる近くでサービスや施設の選択肢が多いのは住みやすさにつながると思う。
- ・ 当事者の方が通っている中学校を見に行ったことがある。結構重度の身体障がいの方だったが、教師の方の介助が手厚く対応されていたのが印象的だった。